テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

# FF14　備忘ログ　期間限定クエスト

2013年11月14日　～　12月9日

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

**冒険者による目撃情報相次ぐ**

噂話をしよう。近頃、エオルゼアの各地で、魔物と戦う謎めいた女騎士が目撃されているらしい。
どうせ、変わり者の冒険者だろうって？
だが、どうやらそうではないらしい。目撃者はそろいもそろって冒険者。しかも皆が、あんな冒険者は見たことがないと口を揃えて証言しているのだ。

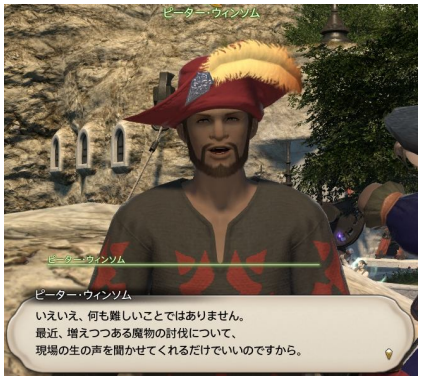
一体何が変わっていると言うのか。目撃したある冒険者によれば、彼女はエオルゼアでは見かけない風変わりな衣装をまとっていたという。さらに、銃とも剣ともつかない未知の武器を手に、熟練冒険者でさえ目を見張る戦技を披露し、魔物を次々と倒していたというから驚きだ。

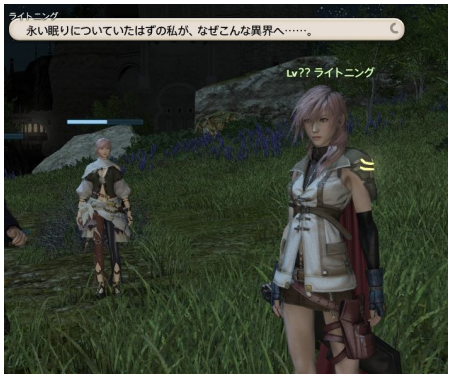
本誌記者が、冒険者ギルドに噂の「女騎士」について照会したところ、返ってきたのは該当する人物はギルドに在籍していないという、そっけない返事であった。
閃光の如く華麗に現れ、魔物を屠る謎の女騎士。彼女は一体何者なのか？
そして、何の目的でエオルゼアにやって来たのか？
興味が尽きないところである。

ピーター・ウィンソム

# 未知の女騎士

ピーター・ウィンソム ： 私の名は、ピーター・ウィンソム。海都の人気情報誌「ハーバーヘラルド」の記者です。
いきなりですが、冒険者さんを取材してもかまいませんか？
いえいえ、何も難しいことではありません。最近、増えつつある魔物の討伐について、
現場の生の声を聞かせてくれるだけでいいのですから。
中央ラノシアの「スリーマルム・ベンド」や、西ラノシアの「クォーターストーン」で魔物討伐に参加して、
その感想を聞かせてください。よろしく頼みますよ！




？？？？ ： ……また戦えというのか。
見知らぬ世界、見果てぬ時空で……　戦いつづけることが、私の宿命だと？
……いいだろう、戦ってやるさ。神がさだめた宿命だろうが……。

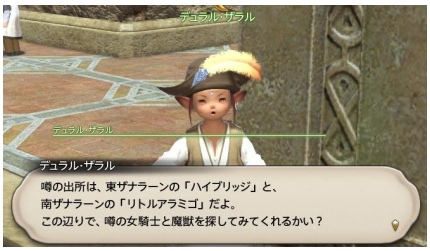
ライトニング ： ブッ潰す。

ライトニング ： そっちは無事か？　戦いに巻き込んで悪かったな。私はライトニング。おまえたちにとっては……異邦人だ。
永い眠りについていたはずの私が、なぜこんな異界へ……。
参ったな、またどこかへ送られるのか。それとも……ふたたび永遠の眠りにつくのか。

ピーター・ウィンソム ： どうも、冒険者さん。無事に戻られましたね。さっそく魔物討伐の感想を取材させてください。
……おや、何かあったのですか？
……何ですって？　見知らぬ、女騎士が現れたのですか？　そこにこの包みが……。
ふむふむ……「ライトニング」と名乗る、凄腕の女騎士が現れた……と。そして、魔物を倒すと、光と共に消え去った……。
なるほど……それで、その跡に残されていたのが、この「異国風の包み」だというのですね？　興味深い、さっそく開けてみましょう！
……これは、見たこともない形の武具ですね。これほど見事な造形の武具を作るのは、革細工の技に優れた、
グリダニアの職人でさえ難しいでしょう。
謎めいた未知の武器を操る、異邦の女騎士……　ふむふむ、これはいい記事が書けそうです。
取材させてくださって、ありがとうございました！
この武具は、魔物と戦う冒険者さんがお持ち下さい。そのほうがお役に立つでしょうからね。それに、私の武器は、このペンですから！

# 異邦の女騎士

デュラル・ザラル ： やぁ、ボクは経済誌「ミスリルアイ」の記者、デュラル・ザラルと言うんだ。各地を渡り歩く冒険者のキミに、取材の協力を願いたくてね。
今、ウルダハっ子から熱い注目が注がれているネタが何か、知ってるかい？　そう、各地に出没する謎の女騎士「ライトニング」の噂さ！
リムサ・ロミンサの「ハーバーヘラルド」誌が彼女の記事を載せてから、絶大な人気を集めていてね。
その女騎士が、ついにザナラーンでも目撃されたらしい。
何でも、この辺りでは見られない、恐ろしい姿の魔獣と戦っていたってことなんだ。
噂の出所は、東ザナラーンの「ハイブリッジ」と、南ザナラーンの「リトルアラミゴ」だよ。
この辺りで、噂の女騎士と魔獣を探してみてくれるかい？




戸惑う商人 ： ヤバいぞ、あれは！
逃げ惑う市民 ： なんだ、あの魔物は！？
恐れおののく旅人 ： きゃー！
銅刃団の衛兵 ： ええい、一旦退け！
銅刃団の衛兵 ： うかつに近寄るな！
銅刃団の衛兵 ： 街に近寄らせるな！
銅刃団の衛兵 ： 我々で時間を稼ぐしかないか！？
ライトニング ： 全員さがれ！　相手は殺人兵器だ！
ライトニング ： 特殊装甲の殺戮機械に、重火器もなく挑むのか！？
ライトニング ： ……そうか、それでも立ち向かうのか。人々を守る盾になろうという覚悟か。
ライトニング ： ならば私は、刃になろう！
ライトニング ： ベヒーモス型軍用獣……なぜ、この世界に。こいつも私のように、異界に「迷い込んだ」のか
ライトニング ： ……あるいは私を追って「送り込まれた」のか？

銅刃団の衛兵 ： やったぞ！
銅刃団の衛兵 ： 協力、感謝する！
ライトニング ： 妙だな……戦い終えたのに、引き戻されない。この世界に、とどまれということか？
ライトニング ： そうだな、せっかく来たんだ。旅してみるさ。

デュラル・ザラル ： やぁ、その顔からすると、現れたんだね？さっそく噂の真相を教えてくれよ！
……なるほど、「ベヒーモス」に似た異様な魔獣と、噂の「ライトニング」が死闘を繰り広げていた……と。
その戦いにキミも加わったんだね？
ふむふむ……戦い終わった彼女は、この「異国風の包み」を残して歩み去ったのか……。ねぇ、何が入っているか見てみようよ！
……こ、この装束は！？　東西から名品が集まる、ここ商都「ウルダハ」でも、こんな風変わりな装束は見たことがないよ……。
いったい、彼女はどこの国の民なんだろうね……。……え、異界だって？　またまた、キミは冗談が上手いね！
ともかく、いいネタができた。取材の協力、感謝するよ！これで次号の「ミスリルアイ」は、バカ売れ間違い無しだ！
この装束は、君に返しておくね。さぁて、忙しくなるぞ～！

# 流麗の女騎士

キピ・ジャッキヤ ： 噂好きたちの愛読誌「週刊レイヴン」って知ってる？　あたしは、そこで記者をやってるキピ・ジャッキヤよ！
よろしくね、冒険者さん。
耳ざとい冒険者さんなら、謎の女騎士「ライトニング」の噂は、もう知っているよね？　各地で魔物と戦う、神秘的な女騎士よ！
彼女の人気は日増しに高まる一方。各誌がこぞって彼女の特集記事を組んでいるわ。
レストラン「ビスマルク」で、ドードーのグリルに舌鼓をうつ女騎士「ライトニング」！
……これは「ハーバーヘラルド」誌の記事。
宝飾店「エシュテム」で、アクセサリーを勧められるも、何も買わず閃光のように立ち去る女騎士「ライトニング」！
……こっちは「ミスリルアイ」誌の記事ね。
どんなに些細な内容だって、彼女の記事が載れば、売上はグンと伸びちゃうの。
あたしたち「週刊レイヴン」だって負けてられないわ！
噂によれば、黒衣森に滞在していた彼女が、北のクルザス地方に向かったらしいの。
彼女を捜して、何でもいいから情報を教えてちょうだい！

逃げ惑う市民 ： 誰か、助けてくれ！
逃げ惑う市民 ： 女性が、ひとりで戦ってるんだ！
ライトニング ： おまえとは、縁があるようだ。たびたび巻き込んで済まないが、手を貸してくれ！

ライトニング ： わかりかけてきた……私がこの世界に流された理由が。私は魂を試されている。おそらくは「神」によって……。
永い眠りからさめて、闘争に臨む覚悟を試されている！

キピ・ジャッキヤ ： お帰りなさい、冒険者さん！　その様子だと会えたのね、噂の彼女に！！　……それで、どうだったの！？
「魔導アーマー」みたいな機械と戦っていた？　ふむふむ……「ガレマール帝国」の魔導兵器とは、異なる形だった……と。
うーん、詳しいことは解らないけど、謎の機械兵器にも、決然と立ち向かうだなんて、やっぱり素敵だわ！　さっそく記事に……。
……って、あら？　あなたの知り合いかしら？

ライトニング ： ……また会ったな。
おまえたちのように自由な連中のことを、冒険者というそうだな。
……私は逆かな。「神」の思惑に、縛られているらしい。エオルゼアに来たのも、きっと神が仕組んだ「試練」だ。
見知らぬ異郷に流されても、世界がどれほど変容しても、私が迷わず戦えるか……　神は試して……利用するつもりのようだ。
……冗談じゃないな。私はもう、神様の道具になるつもりはない。
……まあ、試練で来たとはいってもこの工オルゼアの地は、悪くない。
ここは生命と希望に満ちている。妹や、仲間と一緒に、こんな世界に生まれ変わることができたら……。
……つまらないことを言った。忘れてくれ。

キピ・ジャッキヤ ： ちょちょちょ、ちょっと！　もしかして、今のが噂のライトニングさん！？
あぁん、もう！　独占取材のチャンスだったのに！
でもでも、本人と出会えたのは収穫だったわ。この包みに入っていた装束も、彼女が残したものに間違いないみたいね。
力を貸してくれた冒険者さんに、お礼をしたかったんじゃないかしら……。
だから、これは返しておくね。大切にするんだよ？

# 閃光の女騎士

キピ・ジャッキヤ ： ふっふっふっ！　冒険者さん、「週刊レイヴン」の最新号は見てくれた？　あたしが書いた、ライトニングさんの特集！
あれから、都市中を探し歩いて彼女を見つけてね。直接、お話を聞かせてもらったの！　念願の独占取材よ！　おかげで記事も大評判！
もちろん、ちゃんとお礼はしたわよー。エオルゼアの文化に興味があったみたいだから、
「ミコッテ族の民族衣装」をプレゼントしたの。
ふっふっふっ、これであたしも一流記者の仲間入りだわ！　……って、そうだ！　それどころじゃなかった！
冒険者さん、ライトニングさんが大変なのよ！
噂によると、ライトニングさんが「黒い魔人」たちに狙われているらしいの！　何か悪い予感がするわ……。
目撃情報があったモードゥナ地方で彼女を捜して、力になってあげて！　お願いよ！

ライトニング ： どういうことだ？　奴らを倒したのに、混沌の勢いが止まらない……いや、高まっている？
ライトニング ： このままでは、エオルゼアに混沌が押し寄せる……。……これは、まさか……奴が来るというのか……！
ライトニング ： ……これが「神」の意思か。私を呼び戻すためなら、手段は選ばないんだな。
ライトニング ： エオルゼアに混沌をふりまいても、かまわないというんだな。ならば……応えよう。
ライトニング ： 人の魂を解き放ち、「神」の思惑に応えてやる！　ゆくぞ、オーディンッ！

キピ・ジャッキヤ ： お帰りなさい、冒険者さん！　どうだったの！？　ライトニングさんは無事だった！？
よかった……無事だったのね。すっごく心配してたんだよ。

ライトニング ： ここだったのか。

キピ・ジャッキヤ ： あら、ライトニングさん！　ご無事でなによりです！　こんなところまで、どうかされたんですか？

ライトニング ： 挨拶しておきたかったんだ。
……場所を変えよう。
生命と希望に満ちた地……エオルゼア。ここで過ごした日々は、夢のようだった。
それにひきかえ、私の故郷は滅びかけている。でも……故郷だからな。失いたくない想いを残してきた。
エオルゼアを巡っているうちに、ここで死ぬのも悪くはないと思っていた。
だが、冒険者に会って、おまえに会って、戦う者の覚悟を思い出したよ。
だから私も、覚悟を決めた。
帰ろう……そして、戦おう。
「神」が私を、利用しようというなら……　最期に神をも葬るだけだ。
ふん、神様に意志が届いたか。やはり神は、私が覚悟を決める時を待ち構えていたんだな。
さっそく私を「連れ戻す」つもりだ。……そうか、残念だな。この世界の記憶も消されるらしい。
……さよならだ。

キピ・ジャッキヤ ： 行っちゃった……。

ピーター・ウィンソム ： はぁ、はぁ、はぁ……。グリダニアに向かうライトニング女史を見たという情報を聞きつけ、駆けつけてきたのですが……。

デュラル・ザラル ： 間に合わなかった！？　くっそー、大スクープになるはずだったのに！

キピ・ジャッキヤ ： ライトニングさん……　本当に不思議な人……。
彼女にも、帰るべき場所があるのね。そしてきっと、守るべきもの、救うべきもののために、これからも戦い続ける……そんな気がするわ。
今にして思えば、各地に残した「異国風の包み」は、彼女の「決意」だったのかもしれないわね……。
……よし、さっそく今の出来事を記事にしなきゃ！　冒険者さん、あとで取材させてね！

デュラル・ザラル ： そそ、それはズルいよ、「週刊レイヴン」さん！　あんたのところ、この間スッパ抜いたばかりじゃん！

ピーター・ウィンソム ： そうですとも！　私たちも一連の事件に関わっていたんですから！　そもそも、最初に彼女を記事にしたのは……。

ライトニング ： この世界は忘れても、おまえのことは忘れない。……また会おう、遠い世界で。